



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年10月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	53,466	1.7	1,193	1.9	1,396	7.6	1,030	14.4
2018年3月期第2四半期	52,595	2.5	1,171	△4.8	1,297	60.2	901	6.6

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 1,172百万円 (3.5%) 2018年3月期第2四半期 1,132百万円 (△21.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	42.91	—
2018年3月期第2四半期	37.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第2四半期	76,142	44,892	59.0	1,868.61
2018年3月期	79,505	43,984	55.3	1,830.82

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 44,892百万円 2018年3月期 43,984百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	10.00	—	11.00	21.00
2019年3月期	—	11.00			
2019年3月期 (予想)			—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,700	2.6	5,200	0.4	5,300	△0.4	3,600	△1.6	149.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	27,700,000株	2018年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	3,675,586株	2018年3月期	3,675,586株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	24,024,414株	2018年3月期2Q	24,024,510株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国政権の保護主義的な通商政策や貿易摩擦拡大が懸念されるものの、世界経済の好調を背景に企業の設備投資や生産活動が増加するなど緩やかな回復基調が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、個人消費の持ち直しの動きが見られる一方で根強い低価格志向も見られ、需要層の二極化や選別消費傾向への対応が求められました。

このような状況下で、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、消費者層の高齢化や働き方改革などによる社会構造の変化、女性の活躍推進、共働き世帯の増加などによる消費スタイルの多様化と消費者の嗜好の変化への対応として、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、豪雨や猛暑、台風といった天候要因の影響を受けた品目があったものの、ビスケット品目、キャンデー品目、冷菓品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。利益面では、売上高の伸張とコスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組んだことにより営業利益は伸張し、為替差益や投資有価証券の売却により経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期を上回りました。

また、2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で甚大な被害を受けた地域に、当社はミネラルウォーターやお菓子の支援物資をお届けさせていただきました。被災された地域の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く復旧できますことを心よりお祈り申し上げます。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は49,989百万円（対前年同期比101.2%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目においては、チョコレートたっぷりのおいしさをひとくちサイズにした「ミニ濃厚チョコブラウニー」を発売したほか、プチ贅沢なエクセレントスイーツシリーズに、東日本地域限定の「サクリスミルクショコラ」と西日本地域限定の「レザンヌ」を品揃えしました。また、チョコレートでコーティングしたスティックウエハースの「ショコラエリーゼ」シリーズとファミリーサイズ商品群のリニューアルを行いました。一方、季節に合わせた味の展開として、ほっこり秋のおいしさ“いも・栗スイーツフェア”やハロウィン限定デザインの商品を企画し、マイベネフィット商品群やファミリーサイズ商品群が伸張しました。また、ロングセラーのオリジナルビスケットシリーズや大人プチシリーズの半生商品群、ウエハース商品の「エリーゼ」シリーズや「ロアンヌ」シリーズなども好評をいただきました。キャンデー品目においては、環境省が参画する“熱中症予防声かけプロジェクト”に継続して参加している「ミネラル塩飴」が、猛暑の影響により好評をいただきました。さらに、グミ商品「フェットチーネグミ」シリーズにおいては、はちみつレモン味やりんごヨーグルト味などの新味のほか、コラーゲンなど女性に人気の機能性成分を加えたコラーゲンプラスざくろ味を発売するとともに、人気アイドルグループを起用し、炭酸系グミの爽快感を表現した新テレビコマーシャルを放映しました。また、ジュワ〜っととろけるくちどけマシュマロ「とろマロ」シリーズに、果汁感たっぷりのストロベリー味を品揃えしました。チョコレート品目においては、「アルフォートミニチョコレート」シリーズに紅茶の香りが広がるミルクティーを品揃えしたほか、発売15周年を記念して、「アルフォートミニチョコレート」をモチーフにした記念切手が当たる消費者キャンペーンを開始しました。さらに、「ブランチュールミニチョコレート」シリーズに濃厚ココナッツミルク、スイートポテト味、北海道ホワイトなどの新しい味の展開を行いました。また、チョコとお餅のコンビネーション「もちもちショコラ」シリーズでは、ほうじ茶ラテを発売したほか、ローストアーモンドぎっしりの充実感チョコレート「アーモンドラッシュ」シリーズのリニューアルを行いました。天候不良の影響を受けたデザート品目などが伸び悩んだものの、ビスケット品目、キャンデー品目などが好調に推移し菓子全体では前年同期を上回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は3,477百万円（対前年同期比108.0%）となりました。

飲料品目は、ディズニーキャラクターをパッケージデザインに使用した「はちみつレモンスパークリング」を発売しました。猛暑の影響や災害対策需要によりミネラルウォーター商品群に関心をいただいたものの、ソフトドリンク商品群の競争激化により前年同期を下回りました。

食品品目は、粉末のココア商品「まろやかでおいしいミルクココア」と「しょうがココア」をリニューアルしました。マルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」シリーズに甘酸っぱいいちごミルクを品揃えするとともに、新しい食べ方提案を訴求し拡販を図りました。また、機能性食品では、栄養調整食品「スローバー」シリーズにさつまいも&栗を発売し、販売強化に取り組みました。品目全体では前年同期を下回りました。

冷凍品目は、前期末に地域限定で販売を開始した「ルマンドアイスロイヤルミルクティー」の販売エリア拡大を進めたほか、「ルマンドアイス」の伸張により前年同期を上回りました。

その他では、通信販売事業は、消費者の購買チャネルの多様化が進むなか、取扱い商品の充実や魅力的な品揃えの強化により顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益効率の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、限定醸造ビール「ALWAYS A WHITE (オールウェイズ ア ホワイト)」が、女性層を中心に好評をいただきナショナルブランド商品群が伸張したことに加え、輸出も順調に推移し前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は53,466百万円(対前年同期比101.7%)、営業利益は1,193百万円(対前年同期比101.9%)、経常利益は1,396百万円(対前年同期比107.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,030百万円(対前年同期比114.4%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は35,081百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,114百万円減少となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の減少があったことによるものです。固定資産は41,061百万円となり、前連結会計年度末に比べ751百万円増加となりました。これは主に、有形固定資産の取得があったことによるものです。

この結果、総資産は76,142百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,363百万円減少となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は23,579百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,150百万円減少となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金、未払費用の減少と設備投資に伴う未払金および法人税等の支払があったことによるものです。固定負債は7,670百万円となり、前連結会計年度末に比べ120百万円減少となりました。

この結果、負債合計は31,250百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,271百万円減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は44,892百万円となり、前連結会計年度末に比べ907百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は59.0%(前連結会計年度末55.3%)となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は14,951百万円となり、前連結会計年度末(17,942百万円)に比べ2,991百万円減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は753百万円(前年同期3,109百万円の収入、対前年同期比24.2%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,482百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3,327百万円(前年同期2,092百万円の支出、対前年同期比159.0%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,448百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は417百万円(前年同期524百万円の収入)となりました。これは主に、配当金の支払額264百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年4月27日の「2018年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本日付けで「2019年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,804	14,815
受取手形及び売掛金	14,513	10,823
有価証券	137	135
商品及び製品	3,707	5,720
仕掛品	484	589
原材料及び貯蔵品	2,332	2,642
その他	225	359
貸倒引当金	△10	△6
流動資産合計	39,195	35,081
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	14,500	14,273
機械装置及び運搬具 (純額)	10,471	10,569
その他 (純額)	7,513	8,381
有形固定資産合計	32,484	33,225
無形固定資産		
のれん	1,320	1,263
その他	398	372
無形固定資産合計	1,718	1,635
投資その他の資産		
その他	6,108	6,200
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	6,106	6,200
固定資産合計	40,310	41,061
資産合計	79,505	76,142

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,541	11,193
短期借入金	1,770	1,750
未払法人税等	1,265	694
賞与引当金	1,140	1,444
返品引当金	32	37
その他	10,981	8,459
流動負債合計	27,730	23,579
固定負債		
社債	—	100
長期借入金	650	550
役員退職慰労引当金	261	228
退職給付に係る負債	5,935	5,878
負ののれん	19	18
その他	923	893
固定負債合計	7,790	7,670
負債合計	35,521	31,250
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	37,203	37,970
自己株式	△941	△941
株主資本合計	44,089	44,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	710	723
為替換算調整勘定	△569	△480
退職給付に係る調整累計額	△245	△207
その他の包括利益累計額合計	△104	36
純資産合計	43,984	44,892
負債純資産合計	79,505	76,142

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2017年4月1日 至 2017年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）
売上高	52,595	53,466
売上原価	31,356	31,910
売上総利益	21,239	21,555
販売費及び一般管理費	20,067	20,361
営業利益	1,171	1,193
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	33	35
受取賃貸料	8	8
為替差益	60	102
負ののれん償却額	0	0
その他	38	74
営業外収益合計	144	223
営業外費用		
支払利息	4	4
減価償却費	8	9
賃貸収入原価	4	4
その他	0	3
営業外費用合計	18	21
経常利益	1,297	1,396
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	—	138
特別利益合計	0	138
特別損失		
固定資産処分損	13	30
減損損失	1	0
投資有価証券評価損	0	16
その他	—	4
特別損失合計	15	52
税金等調整前四半期純利益	1,282	1,482
法人税、住民税及び事業税	538	589
法人税等調整額	△157	△138
法人税等合計	381	451
四半期純利益	901	1,030
親会社株主に帰属する四半期純利益	901	1,030

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	901	1,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	118	13
為替換算調整勘定	42	89
退職給付に係る調整額	70	38
その他の包括利益合計	231	141
四半期包括利益	1,132	1,172
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,132	1,172
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,282	1,482
減価償却費	1,792	1,982
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△35	△37
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	4	4
為替差損益 (△は益)	△60	△113
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△138
固定資産処分損益 (△は益)	13	30
減損損失	1	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	0	16
売上債権の増減額 (△は増加)	2,601	3,686
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,977	△2,433
仕入債務の増減額 (△は減少)	685	△1,342
賞与引当金の増減額 (△は減少)	296	304
その他	△606	△1,637
小計	4,054	1,861
利息及び配当金の受取額	35	37
利息の支払額	△4	△4
法人税等の支払額	△976	△1,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,109	753
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,074	△3,448
投資有価証券の取得による支出	△6	△175
投資有価証券の売却による収入	—	311
その他	△10	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,092	△3,327
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△100	△100
社債の発行による収入	—	99
リース債務の返済による支出	△135	△133
配当金の支払額	△239	△264
その他	△0	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	524	△417
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,542	△2,991
現金及び現金同等物の期首残高	12,996	17,942
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,538	14,951

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。